

幕府・諸藩が軍事力強化

実情に合わない軍事力と危機管理体制の転換をはかる安政の改革

POINT

- ▼ 安政の改革は人材登用から
- ▼ 海軍伝習所と洋書の翻訳
- ▼ 江戸湾防備のための台場建設

安政の人材登用

ペリー来航以後、幕府は国防のために軍事力の強化をはかることにしました。老中阿部正弘は、何かと口うるさい水戸藩前藩主徳川齊昭を海防参与にし、川路聖謨、筒井政憲、岩瀬忠震、



阿部正弘

江川英竜（太郎左衛門）、高島秋帆（四郎太夫）、勝海舟らを登用。1635年の武家諸法度により禁止されていた大船建造の禁を解くなど、安政の改革を実施しました。

海軍技術と翻訳所

1855年、幕府はオランダから軍艦を贈られたのを機会に長崎に海軍伝習所を設け、オランダ海軍士官から直接海軍技術を学ばせました。伝習生には勝、榎

本武揚らの幕臣や薩摩の五代友厚などがいました。

また、幕府は築地に講武場（56年に講武所と改称）を設置し、旗本や御家人に武芸の鍛錬も行いました。さらに、軍艦の修理の必要性から、オランダ製の機械を購入して長崎製鉄所を完成させ、フランスの指導のもとに横須賀製鉄所を建設しました。フランスの援助により、洋式軍隊も創設されました。

56年2月には、洋書や外



もっと楽しむ！

『秋帆狩り 夏目影二郎始末旅（十二）決定版』

夏目影二郎の元に、砲術の名手の高島秋帆を警護してほしいと江川太郎左衛門からの依頼がきました。豆州に同行する影二郎に、それを阻もうと鳥居耀威一派との死闘が待っていました。



佐伯泰英著
光文社文庫



もっと知りたい！

観光丸（スンピン号）

現在ハウステンボスで遊覧船となっている観光丸（スンピン号）